

## 世界の労働関係研究所・資料館・ 図書館(7)

アムステルダムの博物館とフィンランドの労働組合中央組織

五十嵐 仁

---

### はじめに

前回までで、アメリカ滞在中に訪問した研究所・資料館・図書館の紹介は終わる<sup>(1)</sup>。私は、2000年9月1日から2001年8月31日までアメリカに滞在し、2001年8月31日にヨーロッパに向けて旅立った。最初の訪問地はアムステルダムである。

私の計画は、この後、半年間をかけてグルッと地球を周り、2002年の2月末に日本に帰国するというものだった。この間、オランダを皮切りに、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、デンマークの北欧諸国をめぐり、再びオランダを経由してイギリスとアイルランドに渡り、そこからベルギーとドイツを経てポーランド、チェコ、オーストリア、ハンガリー、スイスと中欧・東欧諸国を回った。その後、再びドイツを経由してルクセンブルクからフランス、スペイン、ポルトガル、イタリアを訪問した。

ここで、義父が重篤状態に陥ったという報せが日本から届いて旅を中断し、ミラノから一時

帰国する。義父の葬儀を済ませて旅を再開したのは12月に入ってからである。イタリアに戻ってギリシアに飛び、トルコ、キプロス、アラブ首長国連邦とめぐった。こうしてヨーロッパからアジアに戻り、インド、タイ、カンボジア、マレーシア、シンガポールと、東南アジア諸国を訪問した。

その後、オーストラリア、ニュージーランドとオセアニア諸国を回り、「世界一周航空券」の航空会社グループの関係で経由地となったフィジーを経て、2002年2月22日、無事日本に帰ってきた<sup>(2)</sup>。なお、この間の旅行費用は全て自費である。念のため。

というわけで、今回からヨーロッパ諸国で訪問した研究所・資料館・図書館の紹介を行うことにしよう。まず初めは、オランダ・アムステルダムの博物館と、フィンランドで訪問した労働組合中央組織である。

### アムステルダムの博物館など

私がヨーロッパ訪問の最初の訪問地としてアムステルダムを選んだのには、はっきりとした

---

(1) アメリカ滞在中の記録については、「五十嵐仁のアメリカ便り」<http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/iga2/ayori.htm>を参照。

(2) アメリカ出発以降の記録については、「五十嵐仁の諸国探検記」<http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/iga2/tanken.htm>を参照。

理由があった。それは「世界一周航空券」のためである。「世界一周航空券」は、何カ所かの国を選んで地球をグルッと一周するルートを作り、その総マイル数でいくつかのランクに分かれた運賃が決まる。

このようなチケットはいくつかの航空会社グループによって販売されているが、私が利用したのはノースウェスト航空を中心とするグループで、これには、オランダ航空、エミレーツ航空（アラブ首長国連邦）、マレーシア航空、フィジー航空などが加わっていた。このグループを選んだのは、たまたま最初の渡米に利用したのがノースウェストだったということもあるが、私が訪問しようと思っていた国に行くのに比較的便利だったからである。

私の最初の目的地はフィンランドのタンペレという町だった。そこでIALHI（労働史研究所国際協会）の大会が開かれることになっていたからだ。しかし、オランダ航空を利用することで、アムステルダムを中継地を選んだのである。



アムステルダム歴史博物館

アムステルダムでは、国立博物館やゴッホ美術館なども訪問したが、ここでは、社会史や運動史にかかわるアムステルダム歴史博物館、アンネ・フランクの家、オランダ・レジスタンス博物館、全国労働組合博物館などを紹介することにしよう。このうち、最初に訪れたのは、アムステルダム歴史博物館<sup>(3)</sup> Amsterdams Historisch Museumである。

ここには、オランダの歴史資料や絵画などの文化財が展示されている。江戸時代の日本とオランダとの交流を示す展示もあった。

しかし、それ以上に、ここで私の目を引いたのが、第2次世界大戦中の対独レジスタンス運動の展示とナチスの旗で覆われた棺だ。その傍らに、オランダ・レジスタンス博物館からの借用という注意書きがある。「レジスタンス博物館？」このような博物館がアムステルダムにあることを、この表示を見るまで知らなかった。

オランダはナチス・ドイツに占領され、そのために「アンネの悲劇」も生まれている。当然、抵抗運動も存在したことは知っていたが、しか



アンネ・フランクの家

(3) アムステルダム歴史博物館について、詳しくは<http://www.ahm.nl>を参照。

(4) アンネ・フランクの家について、詳しくは<http://www.channels.nl/amsterdam/annefran.html>を参照。

し、「レジスタンス博物館」は初耳だ。

これまで見たガイドブックにも、地図にも出ていない。あるらしいことは分かったが、どこにあるのか、捜しようがない。気になりながらも、この後、アンネ・フランクの家Anne Frank Houseに向かった<sup>(4)</sup>。ここは『アンネの日記』でよく知られている隠れ家で、さすがに地図にも大きく出ている。

この家は、運河沿いの目立たない場所にあった。しかし、その回りを見学者が取り囲んでいて、遠くからでもすぐにそれと分かる。列に並んで中に入るまで、15分ほどかかった。アンネの人気はなかなかだが、それを喜んで良いのかどうか、複雑な気持ちになった。

気持ちと言えば、このような隠れ家に住み続け、人目を避けて音を立てず、階下で働く労働者たちにさえ気づかれずに生活していたアンネ達一家の気持ちはどのようなものだっただろうか。人間の狂気がどのような悲劇を生み出すことになるのか、ここにその実例がある。

この後訪れたレジスタンス博物館で、ドイツ軍やナチスの様々な行進だけを写し続けたフィルムを見た。まさに「狂気の行進」だ。軍靴の音がザッザッザッザッと機械的な正確さをもって響いてくるが、これこそ殺人機械の音にほかならない。これは2度と繰り返されてはならない悲劇であり、光景である。

アンネ・フランクの家の売店で、絵はがきを買った。小学生の娘に、いつか『アンネの日記』を読むように勧めるためだ。この時、ふと思いついて、レジスタンス博物館のことを聞いてみた。案の定、ここで分かった。地図をもらい、行き方も教えてもらった。この地図をよく見たら、全国労働組合博物館も出ていた。

この博物館はIALHIの会員で訪れたいと思っていたが、場所が分からなかった。二つの博物館はすぐ近くにあるので、同時に訪ねることができる。市電に乗って行き着いたオランダ・レジスタンス博物館<sup>(5)</sup>Resistance Museumは、なんと動物園の真ん前だ。日曜日とあって、子供達がたくさん来ていた。もちろん、動物園の方に……。



レジスタンス博物館

写真の中央の建物の一階が博物館だ。写真を撮っている私の後ろが動物園の柵ということになる。この博物館では、ナチスによるオランダの征服とオランダ国内におけるナチス運動の広がり、それへの抵抗と連合軍の反撃の過程が、様々な資料によって展示されている。説明にはオランダ語だけでなく英語もあるので、かなりのことが分かる。

しかし、実際に書かれたり配布されたりした当時の文書などは全てオランダ語で、解説がないと分からない。苦手だった英語だが、その説明文を見てホッとしている自分を発見して驚いたものだ。

ナチス・ドイツはヨーロッパ全土を席卷し、それに対する抵抗運動もヨーロッパ各地で発生

(5) アムステルダム・レジスタンス博物館はHPを持っていないようだが、以下のウェブ・サイトに簡単な紹介が出ている。<http://www.amsterdam-museums.com/museums/resistance.html>

した。これに類する博物館は、各地に存在する可能性がある。また実際、その後、ノルウェーやデンマークなど、いくつかの国で同様の博物館を訪問することになった。

### 全国労働組合博物館

全国労働組合博物館<sup>(6)</sup>は、ここから歩いて5分くらいの所だった。この博物館の建物は、ダイヤモンド労働組合（General Dutch Diamondworkers Union, ANDB）のもので、1900年に建てられたオランダ最古の労働組合の建造物だという。組合も1894年に設立されているからかなりの古さだ。

日本での最初の労働組合の設立は1897年だから、それよりも3年早いということになる。そのような組合が、このような立派な建物を持ち、しかも今もなお残っているということに驚いた。



全国労働組合博物館

労働組合がこのような立派な博物館を持っているということも、大きな驚きだといえる。日

本の労働組合は専門の博物館も文書・資料館も持っていない。彼等の隔たりは極めて大きいといわざるを得ない。

この博物館の地下1階と2階は常設展示場、3階は特別展示場で、このときはオランダの植民地であったスマトラやジャワでの煙草プランテーションの農業労働者についての特別展示が行われていた。この特別展示は2～3カ月毎に変わるようで、現在のものは9月いっぱいまで終わりだという。

1階には受付と集会場がある。この会議室や集会場は今も使われており、私が受付にいた時、奥の集会場から大きな拍手が聞こえてきた。

2階の常設展示場には、写真やパネル、ポスターなどと共に、立派な組合旗や組合リーダーの彫像なども展示されている。かつて、ダイヤモンド労組がいかに力が強く、豊富な資金を持っていたかを物語っているようだ。

この建物自体、H.P.Berlageという有名な建築家の設計になるもので、大変凝った造りになっている。入ってすぐが天井までの吹き抜けになっており、その周りを階段が取り巻く形だ<sup>(7)</sup>。

建築された当時としても大変斬新な作りだったようだ。このような凝ったデザインの建物を造れたということにも、ダイヤモンド労組の力が示されている。

しかし、おそらく今ではその力と資金力は過去のものとなっているだろう。今もなお、ベルギーのアントワープやイスラエルと並びアムステルダムはダイヤの研磨では世界有数で、その見学は観光コースにも組み込まれているが、し

(6) この博物館も独自のHPを持っていないようだ。以下のウェブ・サイトに外観の写真と簡単な紹介が出ている。[http://www.amsterdammuseums.nl/eng/museum/location\\_detail\\_eng.cfm?LocatieID=420](http://www.amsterdammuseums.nl/eng/museum/location_detail_eng.cfm?LocatieID=420)

(7) この建物の建造物としての価値については、<http://www.deburcht-vakbondsmuseum.nl/english.html> を参照。吹き抜けになっている内部の写真も何点か出ている。

かし、機械研磨も導入され、職人の技と数は昔日の比ではなくなっているからだ。

博物館の地下1階にはダイヤモンド研磨のための道具が陳列されていた。これらの道具を使って研磨技術をも磨き続けたダイヤモンド労働者が、熟練工として高い地位を持ち、強力なクラフト・ユニオンを築いていたことがしのばれる。いわば、その遺産がこの建物であり、現在では組合独自で維持できなくなったために1991年から全国の労働組合の共通の博物館として維持・運営されるようになったのではないだろうか。

もう一つ、ダイヤモンドとアンネ・フランクとの接点についても書いておこう。その共通項は「ユダヤ人」である。ダイヤの研磨は、ベルギーに住んでいたユダヤ人が15世紀にその研磨方法を開発したのが始まりだという。このような技術がユダヤ人によって開発され、彼らの間に広まっていったのにも理由がある。

世界に散らばる流浪の民ユダヤ人にとって、場所や設備を必要とせず技術と資金だけで身を立てられる仕事こそがふさわしいものだったからだ。それがダイヤの研磨であり金融業だったということになるだろう。

ということで、ダイヤの研磨がここで盛んになったのは、多くのユダヤ人が生活していたからであり、ドイツのフランクフルト生まれのアンネがここにやってきたのも、当地のユダヤ人社会を頼ってのものだった。したがって、ダイヤモンド労働組合にも、恐らくその中心メンバーには多くのユダヤ人がいたことだろう。ヨーロッパの労働運動や社会主義運動のリーダーの多くがユダヤ人であったのと同様に……。

そしてこのような事情が、労働運動や社会主義運動にたいする敵視と重なっていく。それはヒトラーのユダヤ人排斥感情にも何らかの影響を与えていたに違いない。

### フィンランド労働組合中央会議

アムステルダム郊外のスキポール空港から再びオランダ航空に乗ってフィンランドのヘルシンキに向かった。ところが、ヘルシンキに着いた頃から強烈な腰痛に見舞われた。これからというときに、持病が出たのである。まだ旅は始まったばかりだったので、前途多難を思い、暗澹たる気持ちになったものだ。

この痛み始めた腰をさすりながら、フィンランド労働組合中央会議(Central Organisation of Finish Trade Unions, SAK)の本部に向かった<sup>(8)</sup>。ヨーロッパ担当書記Europe Secretary of SAKであるマーク・ヤースクレネンMarkku Jaaskelainenさんに会う約束があったからだ。

Eメールで面会を申し込み、このときまでにフィンランドとスウェーデンの労働組合から回答があった。SAKのマークさんからは、道順を教えるファックスがホテルに届いていた。ファックスには乗るべき市電の番号と降りる停留所の名前が書いてあり、「そこで降りると簡単に見つけられます。赤い字でSAKと書かれたビルを探してください」とあった。

その通り、SAK本部のビルは簡単に見つかった。地上6階地下1階の堂々たるビルで、屋上に大きく「SAK」という赤い文字の看板が出ている。本部は大きな広場に面していて、そこでは朝市が開かれていた。鮮やかな色のテントが張られ、野菜や果物、花などが売られていた。

(8) フィンランド労働組合中央会議について、詳しくは<http://www.sak.fi/>を参照。英語版もある。



SAK本部のビル

フィンランド労働組合中央会議本部の場所は、ヘルシンキ中央駅を挟んで国会と反対側、私のホテルからは市電で15分くらいの所だった。ほとんど市の中心部だと言って良いだろう。

このような街の中心部に、このような立派なビルを持っているところにも、フィンランドにおける労働組合の比重の大きさ、地位の高さをしのぶことができる。日本で言えば、東京駅の裏の辺に当たるわけだから……。

受付で来意を告げると、直ぐに案内された。マークさんのオフィスに通されたが、そこではコーヒーの用意をして私を待っていてくれた。

各労働組合には、Eメールで面会を申し込むとき、いくつかの質問を書き送っている。マークさんとのインタビューは、この質問を中心に行われた。質問というのは、組合についてのパンフや文書はあるか、最近の組合活動で大きな変化があったとすればそれは何か、特に力を入れているのはどのような活動分野か、組合組織率はどうなっているか、組合活動上の問題点があるとすればそれは何か、最も大きな成功を収めてきた分野は何かというようなものだ。これ

らの質問は、主に、労働組合活動の一般的な状況と特徴について聞いている。

続いて、私の関心のある労働組合と政党・政治活動について、組合と政党はどのような関係を持っているか、労働組合はどのような政治活動を行っているかについても聞いた。マークさんは、これらの質問について逐条的に答えたわけではないし、1時間という限られた時間ではそれは不可能だ。以下、私が理解した限りで、彼の回答を簡単にまとめて紹介することにしよう。

### フィンランドの労働組合運動について

フィンランドには、SAKのほかにフィンランド俸給従業員連盟<sup>(9)</sup> (The Finnish Confederation of Salaried Employees, STTK) とフィンランド・アカデミック労働組合<sup>(10)</sup> (the Confederation of Unions for Academic Professionals in Finland, AKAVA) というナショナルセンター(労働組合中央組織)がある。SAKは約110万人の組合員で最大のナショナルセンターだ。組合員の54%が男性、46%が女性で、女性組合員の比率がかなり高いと言える。しかし、執行委員構成では25人のうち20人が男性と、男性の比率が高くなっている。

3つのナショナルセンターでは、SAKが産業労働者中心で一番古い歴史を持ち、約65万人のSTTKはテクノクラートやホワイトカラーなどサラリーマンが中心で中間階級的、約40万人のAKAVAは大学や学術機関に勤めるインテリや病院の医師など専門職団体的性格が強いという。

違いはこの様な社会的構成だけでなく、政治

(9) フィンランド俸給従業員連盟(STTK)について、詳しくは<http://www.sttk.fi/>を参照。

(10) フィンランド・アカデミック労働組合(AKAVA)について、詳しくは<http://www.AKAVA.fi/>参照。いずれのHPにも、英語版がある。

的な面にもある。SAKは主として社民党支持、一部に左翼同盟(旧共産党)支持の組合も含まれており、AKAVAは保守的で、現在の議長は国民連合(保守党)の党員だそうだ。STTKはその中間ということになる。このような違いはあるが、組合活動の面では共同行動をとっており、結束は固いようだ。ただし、選挙などは別だ。

組合活動の中心は、政労使三者協議での合意形成をめざすことで、1968年からの歴史がある。最近の協議は1995年に始まり99年に合意に達した。これは2001年春から2003年までの賃金、税制改革、雇用政策などについての三者合意であり、一種の所得政策だ。詳しい合意内容を紹介したパンフをもらった。

このような三者協議は主として全国レベルのもので、ここでの協定の締結が決定的な意味を持つ。フィンランドは小さな国で、しかもヘルシンキの支配力は大きい。全国レベルで決まれば、それは直ぐに波及するというのが、マークさんの説明だった。

フィンランドは90年代に深刻な不況に陥り、失業率は15%を越えたそうだ。その後、木材輸出やIT産業を中心とした国際競争力の回復によって雇用情勢は持ち直したが、それでもまだ8~9%あるという。

携帯電話を中心にIT関連産業の輸出が増え、景気は回復したものの、人口と産業の中心は南部に集中しており、産業の状況や失業率などでは地域的な差が大きい。フィンランドのIT化は進んでおり、携帯電話とインターネットの普及率は世界最高水準にある。特に携帯電話のノキアは世界市場の30%を占めるという強さを誇っている。

何故、フィンランドでIT産業が大きく飛躍したのか、その理由について尋ねたが、「幸運だった」というだけで、あまりはっきりした答

えは返ってこなかった。しかし、最近では、フィンランドでもIT不況の影響を受けており、前途は楽観できないということのようだ。ただ、IT関連への産業転換が急速かつ順調に進み、この点では組合も協力した点を強調していた。この分野は労働組合の組織率が高く、発言力も強いようだ。

とは言っても、フィンランド全体の組合組織率は80%にも達しているから、分野ごとの違いはそれほど大きくない。ただし、サービス産業での組織化がうまく進まないということはあるようで、これは日本などと共通している。

このように高い組織率を持つフィンランドの労働運動は政治的にも大きな影響力を持っている。フィンランド初の女性大統領である現在のタルヤ・ハロネン大統領も、社民党出身だ。彼女は労働法の専門家で、このSAKの本部に事務所を持っていたというほどで、組合との関わり方の強さをうかがうことができる。

このハロネン大統領が選出された2000年1月の選挙は7人が立候補する激戦で、最初の投票だけでは決まらず、中央党のアホ前首相との決選投票でようやく当選を勝ち取るというきわどいものだった。このアホ前首相は、大統領選挙で敗れた後、アメリカに行ってハーバード大学のケネディ行政学院のフェロー(研究員)になっている。以前、ハーバード大学のセミナーで彼の話聞いたことがあると言ったら、マークさんは苦笑していた。

SAKの傘下組合の多くは社民党支持だが、建設や食品組合など、一部には旧共産党支持の組合もあるという。25人の執行委員のうち、20人は社民党支持、5人は旧共産党支持の分布になっている。

したがって、総選挙などの党派選挙では、特定政党に対するSAKとしての公的な支持の表明は行わず、資金援助も少額にとどまっている。

しかし、SAKが社民党を支持していることは秘密ではなく皆知っていることだといって、マークさんは笑っていた。

このようにSAKとしての政治活動はかなり控えめなものだが、傘下の産業別組合では活発に資金援助を行ったり、選挙に取り組んだりする組合もあるようだ。また、党派選挙ではない大統領選挙では、事情は異なるという。

特に、前回選挙は組合と関わりの深いハロネン候補が立ち、しかも激戦だったために、SAKもかなり運動に力を入れたようだ。その結果、現大統領の当選となったわけだから、組合の影響力はいやが上にも高まるということだろう。

最後に、面白いグラフを見せてあげると言って、一枚の紙を渡された。そこには、主な国の労働組合の組織率と労働協約が及ぶ労働者の比率が示されている。フィンランドやスウェー

デン、デンマークなどの北欧諸国は、両者ともに極めて高い水準にある。

これに対して、フランスやドイツなど中欧諸国は、組合の組織率はそれほど高くないが、労働協約の及ぶ範囲は広く、組合の社会的影響力の強さが示されている。これらと好対照なのがアメリカや日本で、いずれも組織率は低く、労働協約の及ぶ範囲も狭くなっている。

このグラフを見ながら、このような彼我の差は何故生じたのだろうか、将来にわたって、この差を埋めることは可能なのだろうか、と考え込んでしまった。今回の私のこの旅は、このような疑問に対する答え探しの旅でもある。せめてそのヒントや手がかりだけでもつかんで帰りたいものだ。

(以下、続く)

(いがらし・じん 法政大学大原社会問題研究所教授)

## 欧米の公務員制度と日本の公務員制度

### 公務労働の現状と未来

(A 5判・約140ページ、定価：1500円+税)

#### ◆第1部:先進主要国の公務員制度◆

ドイツ公務員制度の概要／縣 公一郎 (早稲田大学教授)

イギリス公務員制度の概要／西尾 隆 (国際基督教大学教授)

フランスの公務員制度の概要／下井康史 (鹿児島大学助教授)

アメリカ公務員制度の概要／原田三朗 (駿河台大学教授)

#### ◆第2部:日本の公務員制度をめぐる諸課題◆

公務員制度改革とILO／花見忠 (上智大学名誉教授・日本労働研究機構会長)

日本の公務員制度と改革をめぐる問題／早川征一郎 (法政大学教授)

公務員の労働三権をめぐる先進国の動向／清水敏 (早稲田大学教授)

公務労働をめぐる主要判例の軌跡／高橋清一 (元茨城大学教授・弁護士)

#### ◆第3部:資料編◆

■申込先■

(財) 日本ILO協会/ <http://www.jilo.or.jp>

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-2-3 宗保第2ビル

電話03-3294-3341 FAX 03-3294-8220 上記のホームページからも申込できます。